

# NPOの取組み 子育て世代への支援

～ 女性(母親) が元気になれば、家族も地域も元気になる ～

特定非営利活動法人 せんだいファミリーサポート・ネットワーク

# 特定非営利活動法人 せんだいファミリーサポート・ネットワーク

## 設立の経緯

せんだいファミリーサポート・ネットワークは、子育て家庭支援を目的として、仙台市内で長く子育て支援にかかわってきたメンバーを中心に、平成15年3月3日に設立し、同年11月19日には特定非営利活動法人として認証を受けました。

子育て支援はもちろん、子育てを応援する人たちや既存の施設・団体と連携をはかりながら、よりよい支援事業を展開しています。

## 事業内容

- ▶ 1. 子育て支援にかかわる情報の収集と発信
- ▶ 2. 子育て相談
- ▶ 3. 子育て期・転勤族のための仲間づくり
- ▶ 4. 研修
- ▶ 5. 子育て支援・子育て団体のネットワークづくり
- ▶ 6. その他、法人の目的を達成するために必要な事業
- ▶ ※指定管理者として「仙台市子育てふれあいプラザのびすく仙台」を運営  
(H16.1.15～、H18.4.1～、H23.4.1契約更新)

## 主な実績

- ▶ 子育て情報収集提供委託事業受託（H17年度～）
- ▶ 父親育児参加推進事業受託（H22年度～）
- ▶ 仙台市子育て応援情報ステーション情報収集提供委託事業受託（アンパンマンミュージアム子育て支援室）
- ▶ NPO法人冒険あそび場－せんだい・みやぎネットワーク主催 「新しい公共の場づくりのためのモデル事業」 会議体参加
- ▶ 未来を築く子育てプロジェクト東日本大震災緊急支援プログラム助成事業
- ▶ 「ほっとママスペース」開催
- ▶ 公益財団法人協会東日本大震災救援基金助成事業 「子育てファミリーのための地震防災ハンドブック 大切な人を守るために今できること」発行
- ▶ NPO法人子育てひろば全国連絡協議会東日本大震災にかかる支援活動費助成事業
- ▶ 東松島市・石巻市等被災地域支援と支援者支援
- ▶ 「地域子育て支援拠点研修事業東北開催」協力（H18・22・23年度）
- ▶ 独立行政法人福祉医療機構「長寿・子育て・障害者基金」助成事業
- ▶ 「乳幼児の父親のためのネットワーク事業」実施 「伊達なパパ本」（仙台父子手帳）発行
- ▶ (財)せんだい男女共同参画財団 人材育成連携事業
- ▶ 「託児者・子育て支援者のためのパワーアップ講座」企画協力（H19年度～）
- ▶ 連携事業「子育て応援団すこやか2009」参加（H19年度～）
- ▶ 厚生労働省委託事業「みやぎ緊急サポートネットワーク事業」受託（H18年度～）
- ▶ みやぎ生協こ～ぷほっとわ～く基金助成事業 「親支援プログラムノーバディーズパーフェクト講座」実施（H22年度～）
- ▶ 法人10周年記念事業 「ママのためのチャレンジマネー」実施 「粋なパパ本」（仙台父子手帳第二弾）発行
- ▶ 公益財団法人せんだい男女共同参画財団設立10周年記念特別助成事業「ママのキラ活」発行

# 仙台市子育てふれあいプラザ のびすく仙台

## 事業内容

### 1. ひろば事業

異年齢の子どもたちが交流する場と親子が集う場を提供。特に0～1歳児の子どもをもつ親の交流と、高齢で出産した母親同士の交流の場を提供。母親が自らの力に気づき、その力が社会につながるよう、様々な機会を提供していく。

### 2. 情報収集・提供事業

子育て中の保護者に必要な情報を収集し提供。

### 3. 一時預かり事業

生後6ヶ月から就学前までの子どもを対象に、理由を問わない預かりを行う。

### 4. 地域連携

地域の子育て支援団体・機関・施設とネットワークを組み、地域における子育て支援の充実を図る。子育て支援ネットワーク構築に向けた、関係機関や施設・団体等の情報・意見交換の場をつくる。

### 5. 次世代育成

中学生の職場体験、高校生ボランティア、大学生の市民活動体験等の受け入れ。

### 6. その他、法人の目的を達成するために必要な事業

相談、防災、被災者支援等。

## 来館者数等推移 (平成21年度～25年度)

来館者数										
	青葉区	宮城野区	太白区	若林区	泉区	市外	小学生 大人のみ 視察団体	合計	1日 平均	
21年度	17,219	8,066	5,585	4,085	3,117	6,110	1,197	45,379	146	のびすく3館体制
22年度	19,576	8,550	3,564	3,770	2,664	5,796	1,370	45,290	154	
23年度	20,828	8,714	3,298	3,785	3,062	5,311	1,898	46,896	149	3.11震災
24年度	22,428	8,332	4,323	3,164	2,738	5,356	1,909	48,250	155	のびすく4館体制
25年度	22,360	7,571	3,288	4,737	2,447	4,909	1,684	46,996	149	

託児人数									
	青葉区	宮城野区	太白区	若林区	泉区	市外	合計	1日 平均	
21年度	1,061	539	345	262	215	430	2,852	9	
22年度	1,127	424	300	245	144	379	2,619	8	
23年度	1,329	364	308	258	181	385	2,825	9	
24年度	1,588	531	345	319	184	371	3,338	11	
25年度	1,653	553	220	314	172	459	3,371	11	

事業										
定期イベント	21年度		22年度		23年度		24年度		25年度	
	回数	参加者								
グループ相談	12	88名	12	78名	12	106名	12	144名	12	122名
お誕生会	12	209組	11	176組	12	191組	12	199組	13	200組
お話・読み聞かせ会	62	593組	44	571組	40	501組	57	798組	55	711組
障がい児ひろば	12	131名	12	194名	11	67名	12	72名	12	71名

相談事業										
相談	21年度		22年度		23年度		24年度		25年度	
		201件		159件		186件		139件		178件

## 3.11 その時 そして それから

### 14時46分 地震発生

震度7の大きな揺れが7分間続いた。ひろばには20組程の親子が遊んでおり、託児室には5人の預かりを行っていた。ひろばでは一カ所に集まり、子どもを囲んで大人が覆いかぶさるようにし、スタッフは周りの状況を確認しながら揺れがおさまるのを待った。託児室ではサークルを部屋の真ん中に移動させ、子どもたちを入れた状態で待機した。

揺れがおさまっても安全確認が終了するまで、動かないよう指示し、建物の1階にいる管理者に連絡をとり、安全確認終了後、外階段を使って屋外への避難誘導を行った。

### 震災2日後 支援活動開始

沿岸部で被災した親子が洋服をもらいにやってきた。「ここに来れば子供服があると聞いてやってきた」とのことだった。その後、全国各地から支援物資を送りたいとの連絡が入り、受け入れを行い、仕分けをし、被災地へと届けた。

## **震災4日後 のびすく仙台開館**

建物の被害がなく、水、電気も止まらなかったため、揺れで散乱した書類やおもちゃを片付ければ開館できる状況となったため、仙台市と協議し異例の速さで開館に踏み切った。ただ、ガスは停止し、暖房がガスを使用していたため、ひろばは厳しい寒さだった。

2組の親子が来館した。「子どもを遊ばせたかった」「余震が怖くて、自宅に居られなかった」と、話していった。

## **震災9日後 のびすく仙台開館のニュースがテレビで流れた**

90人を超える親子が遊びに来た。震災の恐怖で子どもが親の手を離さなくなっていたり、笑わなくなっていたのが、のびすく仙台に来て初めて子どもから手を放してくれた、笑ってくれたと喜ぶ親がたくさんいた。みんなが不安や恐怖を話していった。

## 震災1カ月後 東松島市子育て支援センター「ほっとふる」へ

ようやくガソリンが手に入り真っ先に向かったのが、津波被害の大きかった東松島市の子育て支援センター「ほっとふる」。センターは津波被害から免れていたが、市街地の65%が浸水し、死者・行方不明者が1000人を超える大きな被害を受けていた。そこで、スタッフから「町のほとんどの人が大切な家族や友人を亡くしたり、家が流されている。子どもを亡くした母親もたくさんいて、どうしたらいいかわからない。」という声が聞こえてきた。

## 震災3カ月後 震災によるストレスがピークに

ひろばに遊びに来るお母さん、お父さんたちが、ちょっとしたことで声を荒げたり、子どものしかり方がひろばの雰囲気一掃させるような場面がみられるようになった。親への支援の必要性を感じ、母親のための託児付しゃべり場を開催した。自分たちはたいした被害がない。こんなことで弱音を吐いては被災者に申し訳ないとずっと我慢してきた。でも本当は怖かったし、辛かったとの声がたくさん聞こえてきた。

貴重な体験を次の世代のお母さんたちに残しておきたいとの思いで、地震防災ハンドブックの作成を企画。アンケートを実施し、200名のお母さんたちの声を集めた。

**震災5カ月後 東松島市・石巻市・女川町の支援者のための合同研修会と交流会を開催**  
自らも大きな被害を受けていながら、震災直後から休みなく仕事をしてきた支援者が、心身共に疲れがピークに達していた。「保育士として我が子の安否も確認できないまま、一週間仕事を続けた。我が子も守れない自分に腹がたった。」等、心の声を吐き出してもらった。

**震災6カ月後 ハンドブック発行とサロンの開催**  
乳幼児親子のための地震防災ハンドブック「大切な人を守るために今できること」発行。  
東松島市で女性のためのサロン「わたしじかん」を月1回程度開催を目指しスタート。



**震災11カ月後 「ママともサロン0123」開始**  
福島から避難してきた母子のためのサロン。福島出身の先輩ママ、臨床心理士、保健師に同席してもらい、ママたちのしゃべり場をつくった。放射能、慣れない土地での子育ての不安、偏見や差別が辛い等の話が出た。

## 震災2年後

### 平成25年5月～ 福ガール'sプロジェクト立ち上げ

「ママともサロン0123」に参加していたママたちが、福島の実状を自らも発信したいと、グループを結成し、イベント等を企画・開催。



### 平成25年8月～ 石巻ボンボンカフェプロジェクト会議に参加

石巻市で子育て支援に関わってきた人たちを中心に、「お産に強いまちづくり」を目的に話し合い、サロン・イベント等の開催を行う。

### 平成25年9月～ 石巻わたしじかん開始

東松島市で開催してきた女性のためのくつろぎサロン「わたしじかん」を石巻でも開始。

## 震災3年後

### 平成26年3月～ ママのためのハンドブック発行

結婚・出産を機に退職した女性が再就職を考える時さまざまな問題に直面する。その問題を紐解きながら再就職へと導いて行けるハンドブックを作成すると共に、より具体的に考える機会づくりと自己実現のお手伝いをしていく。



### 平成26年6月～ NP（カナダの親支援プログラム）講座開催

石巻市・東松島市・名取市の被災地において、NP講座を開催。参加者同士が徹底的に話しあうことで、子育てのこと、夫婦のこと、ママ友のこと、自分自身のこと等、子育てのさまざまな問題に気づき解決につなげていく。

## 現在の活動

- ・ 女性のためのサロン「わたしじかん」を月1回程度開催（東松島市）
- ・ 子育て支援者研修（石巻市・東松島市・女川町）
- ・ お産につよいまちづくりを目的に活動する「ボンボンカフェプロジェクト会議」にアドバイザーとして参加（石巻市）
- ・ グリーフケア「陽だまりの会」をサポート（気仙沼市）
- ・ NPO法人冒険あそび場-せんだい・みやぎネットワーク主催、乳幼児の遊び場「ちびひろ」「ママ&ぱぱかほえ」に協力（若林区）
- ・ 福島から避難してきた女性を対象に「福ガールプロジェクト」を開始（仙台市）
- ・ 福島から避難している母子サロン運営者による情報交換会（山形・福島・宮城）
- ・ 女性のためのサロン「まあぶるたいむ」を月1回程度開催（石巻市）
- ・ 地震防災ハンドブック「大切な人を守るために今できること」の配布と防災ワークショップの開催。

震災4日後から被災者支援をスタートさせ、時間の経過と共に変化する被災者の心、現場の状況を判断しながら、支援活動を継続させてきた。

NPOができることには限りがあることを認識しながら、NPOにしかできない支援もあることを確認しつつ、当事者（被災者・女性）を真ん中にした支援を行ってきた。

女性への支援にこだわったのは、法人設立当初より親支援、特に母親への支援を行ってきたノウハウもあったことから、スムーズに活動をおこなうことができた。

「女性たちが元気になると家庭も地域も元気になる」「女性たちが自立した社会は安定した社会になる」「女性たちが活躍することが復興への近道になる」を信じて、これからも支援活動を続けていこうと思う。

ありがとうございました！